

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	23 / 2008 / 36-39
タイトル	妙見「大星神社」の植物 (1)
著 者 名	石郷岡總一郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

妙見「大星神社」の植物(1)

第25代 石郷岡 總一郎

近年、身近雑草と言われるありふれた植物すら見かけることが少なくなったような気がします。それだけ都市化・市街地化の波が青森市中心部に押し寄せて来ているのでしょう。このままでは、それらの植物さえレッドデータ扱いになってしまうかも知れないという危機感を抱いていました。そのため、今のうちに身近な市街地の植物を写真記録として残そうと考えていました。

何年前か、「大星神社」の「シダレザクラ」を見にいった際、結構多数の植物が自生している事に気が付きました。ここならば、勤務先から徒歩2分と近い事もあり、あまり負担にならずに継続観察が出来るし、身近な植物も多いだろうと思い、折々に足を運んでいます。観察フィールドとした初期の頃は、観察感覚が麻痺していたためか、見えていたものにも気づかずに過ごしていました。一昨年あたりから本格的に写真記録に取りかかっています。改めてここで撮った植物写真を眺めてみると、思いの外在来種が多数有る事を感じています。

今回から大星神社の植物を中心として、市街化が進む青森平野の中央部では少なくなった自然環境を観察できる場所として、記録を兼ねた紹介をして行きたいと思います。自生植物を中心として紹介しますが、植栽・逸出のものも混じっています。後述しますが、2007年現在、「シダレザクラ」など一部を除き、栽培管理されている植物は有りません。また、環境変化に関する記録は取っていませんでしたので、個別の植物へ付けたコメントは、たぶん印象的なものです。掲載する植物は、季節や分類など無関係になりますが、その点ご了承をお願いします。種の同定もあやふやな面が有るかも知れませんが、誤記などご指摘頂ければ幸いです。



[図1] 大星神社境内略図
(濃緑:スギ林、黄緑:落葉樹、淡緑:草地)

大星神社の状況について

まずは場所の紹介です。青森平野のほぼ中央部といえる場所に「大星神社」が有ります。義経北行伝説や津軽七星神社説などに彩られた古社で、「妙見のシダレザクラ」が有る所と言った方が分かりやすかも知れません。境内の敷地は、約1.5～2ヘクタール程で、荒川・合子沢川合流点付近から荒川沿いに参道が西に延びています。古くはその参道沿いにスギが植えられていましたが、現在は伐採されて有りません。参道入口から200m程の所に本殿があります。

植生は、本殿を取り囲む西側にスギ林(略図濃緑部分)、南東側は草地(同淡緑部分)になっています。スギ林と草地の中間部及びそれらの周縁部は、落葉広葉樹(桜・もみじ、略図黄緑部分)が植えられています。スギ林及び広葉樹下には林下・林縁の植物、南東側の草地性の植物が見られます。草地は、年に1～2回草刈りが入り、また、市街地化などの影響により若干不安定な環境になっているようです。略図中央部の青いドーナツ状の場所は、池になっています。水源は無いようで、雪解け水や雨水によって維持されている様で、夏～秋口に干上がる事も有ります。ここではミクリなどの水辺の植

物を観察できます。また、南側(問屋町側)の一部は側溝状になっていて春先に水が貯まり、水気を好む植物が多いようです。

周辺地域は、昭和 42 年(1967)頃までは水田でした。同年、(協)青森総合卸センターの造成により市街地化が始まりました。現在は市街地に囲まれた緑の孤島になりつつ有ります。また、2002 年 4 月頃までは、大星神社の宮司が境内に在住していたため、草刈りなどの手入れが行き届いていました。現在は、他所の宮司が兼務している関係もあり、草刈りの頻度が低下するなど放置状態になっています。そのため、自生植物が繁茂しだし、植物観察には好都合となって来ました。

なお、平成 10 年(1998)のやぶなべ会総会会場として、大星神社境内にある「妙見市民館」が使用されました。

植物の紹介



妙見のシダレザクラ

まずは、大星神社を代表する花として「シダレザクラ」を紹介します。樹齢約 350 年。明治期の花見といえば、ここを言っていたそうです。当時は荷馬車に乗って一日がかりで花見に来たものだとは明治生まれの祖母から聞いた事が有ります。近年樹勢の衰えが目立つようになったため、グリーンクリーン青森(樹木医・斎藤嘉次雄会長)の会員が十二年前から樹勢回復治療を施しています。2007 年は、花芽が少なく寂しい状態でしたが、2~3 年後には回復していくでしょうとの事です。

(2005-05-06 撮影)

キタコブシ (モクレン科)

略図の一番南に有ります。問屋町側からは、手前が企業の駐車場になっているので見やすい位置にあります。何年か続けて観察していると、花が多く咲く年とほとんど咲かない年が交互に有りました。2006 年夏、手入れのために下半分の枝を切り落としたので、この樹形は現在見られません。今年は残された枝に多数の花を付けていました。(2006-05-01 撮影)



オオタチツボスミレ (スミレ科)

桜が咲く時期頃、草地西側を中心として多数咲いています。各年による変動は少ないようです。この後、急速に成長する他の植物の中に埋もれて観察しづらくなっていきます。(2006-05-09 撮影)



キバナノアマナ (ユリ科)

草丈 15cm 程度。見落としている可能性がありますが、数は少ないです。2007 年は出会う事が出来ませんでした。(2006-04-29 撮影)

ホウチャクソウ (ユリ科)

2006 年までは、ほとんどスギ林の中を見つけていませんでしたので、その存在に気が付いていませんでした。スギ林下を中心に多数生えています。

(2006-5-25 撮影)



フジ (マメ科)

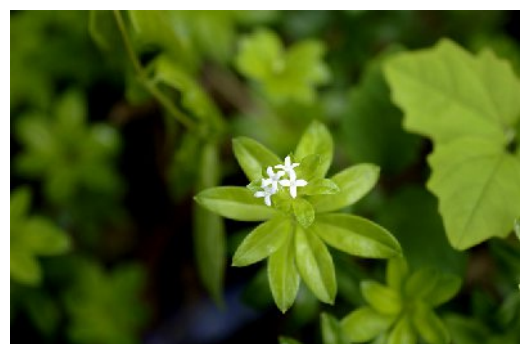
境内南西の端に 2~3 株ほど生えていましたが、現在は刈り取られて有りません。2007 年はキタコブシの東側に 1 株だけ確認しています。

(2006-05-26 撮影)

クルマバソウ (アカネ科)

スギ林の林縁を中心に、一面に敷き詰められたような大群落を作っています。年々も生育エリアが増えている印象を持っています。

(2006-05-26 撮影)



ウマノアシガタ (キンポウゲ科)

花卉に光沢があるのでよく目立ちます。略図中、右下から伸びる道路先の左側付近を中心に生育しています。その他の場所ではあまり見られません。どのような環境の違いが有るのか不明です。

(2006-06-05 撮影)



キカラスウリ (ウリ科)

2006 年、はじめて見かけました。黄色い実を楽しみにしていましたが、撮影した数日後の草刈りによって、それは夢と消えました。(2006-08-12 撮影)



西部のスギ林 (周縁部には広葉樹が混じる)



東南部の草地 (草刈り直後、写真は共に 2007-05)

【資料】(青森県神社庁のホームページより抜粋)

住 所: 青森市問屋町一丁目 18 番 28 号

祭 神: 天之御中主神、(左方)磐裂神、根裂神、素戔雄神、(右方)経津主神、武甕槌神、神倭磐余彦神、日本武神

例祭日: 旧六月十五日

由 緒:

延暦十一年蝦夷鎮護の祈願所として草創され、同二十年坂上田村麻呂將軍東夷征討の時、本社殿を再興して妙見宮と称して天之御中主神を祭ると言い伝えられる。津軽藩初代藩主津軽為信公の再建、二代藩主信牧公の祈願、四代藩主信政公は社殿の再建並びに庭園を築き、桜樹を移植して境内を整備し神聖を計り、九代藩主寧親公は本殿を構築し、御神器諸物、御真筆の社号の額を奉納。一般民衆に厚く尊榮せられ、大祭及新年旧正月十五日には遠近の村落よりの参詣人で賑わう。明治三年神仏分離令により大星神社と改称。

[補注] 大星神社所有の「額」が青森市、「舞楽面・能面」が青森県の文化財として登録されている。